

2022年度の事業計画の概要

1 誰でもが地域に住み続けられるための条件整備に関する事業

① 地域まちづくりに関する相談・支援事業

これまでの当法人の活動の実績をもとに、追浜のまちづくりに関する相談等に対応し、可能な範囲での支援、協力を行う。具体的には、深浦漁港の「わかめ収穫祭」等の行事など、地域活動への参画を図る。

② 会報「あんず通信」の発行

これまで同様な2回の発行を目指す。コロナ禍で活動が制限されているため、合併号として年1回の発行もやむなしとする。

2 地域資源の保存・活用に関する事業

① 第三海堡遺構の見学・ガイドツアー

見学者に対するガイド事業は個人・団体を問わず引き続きおっぱまはっけん倶楽部の協力を得て実施する。

② 貝山地下壕の一般公開に関する事業

貝山地下壕一般公開によるガイドツアーが2年目となる。幸い毎回の募集は早期に定員が埋まるが、企画ツアー（ホームページでの一般募集）は2ヶ月に1回とし、モニターツアー（各種団体）も地域の団体や地下壕等で活動する団体など、前年度とほぼ同じ規模で行いガイド活動の充実を図る。

③ 追浜の自然や歴史遺産を活かすフィールドミュージアム構想の検討

昨年検討した名所案内コース等の項目案を精査し、フィールドミュージアム構想に活用できるコースの解説・案内を作成する。今年度は、特に内容をデジタル化して公表する場面に考慮すべき事項の検討を進める

④ 各種冊子の発行・販売

『東京湾第三海堡物語』と『追浜歴史遺産 貝山地下壕 見学のしおり』を販売する。増刷の希望が多かった『追浜トンネル物語』は今年度の増刷(200部)を目指す。

3 まちづくりの人材育成に関する事業

① 学生のまちづくり支援

関東学院大学とは、今年度も「空き家プロジェクト」に関わる学生の追浜での活動等を支援する。その他の大学、高校等の見学、インターシップの要請に対応する。また学生会員の制度があるので、これの活用も図る。コロナ禍では実施の難しい部分もあるので、実情に即して活動する。

② 各種団体との交流と人材育成の実施

追浜地域の各種団体と地域住民あるいは大学とをつなげる活動を行う。また、市外でも共通する課題に取り組む団体の視察を受け入れる。コロナ禍では実施の難しい部分もあるので、実情に即して活動する。